

# 山行報告書

日時	2022年4月29日(金・祝)～5月2日(月)		天候	—
山名	尾瀬(燧ヶ岳)			
CL	こーちゃん	参加者	sara、ほうまん、T田、yoyo、M澤(総勢6名)	
4/29(金) 雨	福岡空港=(航空機)=羽田空港=(モノレール)=浜松町=(JR)=東京=(新幹線)=上毛高原=(バス)=戸倉=(バス)=鳩待峠14:30・・・山の鼻・・・18:20見晴(実行動時間:3:10)			
4/30(土) 晴れ	見晴5:30・・・(富士見峠方面散策)・・・8:40見晴9:00・・・12:00沼尻12:50・・・(尾瀬沼散策)・・・15:50見晴 ※ほうまん、yoyoは尾瀬ヶ原散策(実行動時間:7:00)			
5/1(日) 曇りのち雨	見晴5:30・・・8:55燧ヶ岳9:15・・・11:40見晴13:00・・・15:10山の鼻 ※ほうまん、yoyo、M澤は、山の鼻への移動のみ(実行動時間:6:00)			
5/2(月) 晴	山の鼻9:00・・・10:40鳩待峠=(バス)=戸倉=(バス)=上毛高原=(新幹線)=東京=(JR)=浜松町=(モノレール)=羽田空港=(航空機)=福岡空港(実行動時間:1:10)			
sara 感想	福岡にUターンしてから、初めての本格的な遠征でした。尾瀬は去年の夏に観光で行きましたが、ゴールデンウィーク頃の尾瀬は、まだまだ雪が多くてこんな感じだったんですね。尾瀬沼散策は快晴、燧ヶ岳登山はガスの中で、稜線にでてからは強風、おまけにその辺りからカメラが不調になり、山頂の写真は無しで少しホホホ感がありました。こーちゃんさんを初め、同行の皆様と色々話が出来て楽しい山行でした。ありがとうございました。			
ほうまん 感想	コロナ禍でやっと遠征が出来そうになったので思いきって尾瀬へ！鳩待峠から雨がふり雪も大量にまだ残っており木道も雪に埋もれた尾瀬を横断する。ところどころ雪解けで穴があり足を滑らせ足が水浸しになる。やっと見晴に着くが靴がつかぬ濡れで翌日の尾瀬沼は止めて写真撮影日とする。燧ヶ岳は雨予報で登らず山の鼻へ！雨、晴、雨、晴と一日で天気が変わったが撮影には最高だった！			
T田 感想	5月1日4時、ひのえまた小屋の快適な布団でぐっすり休んで起きると、予報通り「曇り」のお天気だ。(雨だったら中止)5時10分、メンバーはリーダー・私・サブリーの3人。初めての12本アイゼンと初めてのピッケルを装着し、いざ燧ヶ岳頂上に向けて出発！真っ白で他に誰もいない景色、何の音もしない景色の中スキー場の上級者用ゲレンデを登るような急登が延々と続く。人が居ない、道が無い、視界が悪いと目標が無い、雪山はどこでも歩ける。燧ヶ岳は道迷いが多い山であるとの事。リーダーは常にGPSを確認しながら歩き続ける。なんと頼りになることか！9時、最高点の柴安岩へ到着。ピークは凄まじい吹雪と零下の寒さで写真も撮れない状況だ。すぐ下山開始。(結局3人共写真撮れず)しかしこの状況でピークにたてたことの喜びは格別だ！「下り」、ストックからピッケルに持ち替える。ステップを切りつつ、ピッケルをしっかり打ち込んで支点にしつつ下って行く。意外と登りより下りが怖いと思った瞬間、数メートル滑落。すぐピッケルを打ち込み停止。初めてのピッケル使用だったが恐怖感なし。てなわけで無事に帰ってこれてほっとしました。もっと技術と知識を身につけなければ。			
yoyo 感想	初めての尾瀬は雪に覆われていて、見渡す限り白い原と曇り空からの雨粒で、遠くの木立も空もグレーな世界。覚悟して踏み込んでいかなければ山小屋へは辿り着けないような気持ちにさせられました。六本爪アイゼンは、あまり使用してないにも関わらず途中で左右共に壊れてしまい、やっとの思いで山小屋へ着きました。今回、山へはひとつも登らず雪の尾瀬ヶ原を歩いて来ただけの山旅となりました。			
M澤 感想	燧ヶ岳・尾瀬沼・至仏山山行に参加致しました。天候が予報通り雨、晴れ一日おきの天候でした。二日目の晴天の尾瀬沼への山行9時間に参加しました。翌日の燧ヶ岳は雨の予報と酷い靴擦れで参加しませんでした。行かれた3人の話では強風と急登で苦労されたようでした。吹き飛ばされそうだった昨年の白根山山行の時よりも凄かったと聞いて、凄さが想像出来ました。悪天候ながらも雪に隠れた木道を一步一步注意深く3時間往復二日で6時間歩いた事とあの幻想的な風景を見れた事は掛替えのない体験でした。小屋は掃除が行き届き、気持ち良いお布団と美味しい料理を頂きとても良い山行でした。			
こーちゃん 感想	半日サイクルで天気が変わりましたが、大事なところでの雨がなかったので良かったです。尾瀬ヶ原往復の雨中行動、大きな勘違いでの富士見峠方面散策とトラブルもありましたが、尾瀬沼に行って燧ヶ岳の絶景を見ることが出来たこと、6年前途中で断念した見晴新道からの燧ヶ岳登頂を実現出来たことで、大変満足出来た山行でした。まだまだ、雪と氷の世界でしたが、少しだけですが水芭蕉が咲いており、春の気配が感じられました。宿泊した小屋の食事も豪勢で美味しかったです。			
費用概算	(交通費/人) 約53,000円 (山小屋/人) 桧枝岐小屋 10,000円×2泊、山の鼻小屋 11,000円			

